

白川静のことば

《46》



金子都美絵・画

見

ケン・ゲン
みる・みえる・みせる・あらわれる

一、みる

見るという字はご覧のように目を上に大きくあげて、その下に人が書いてあります。これはこの時代の字のつくり方において、そういう特徴的なもの、機能的なものを上に大きく出す。たとえば聞では耳を大きく上に出して、その下に人を書く。これがこの時代における文字の構成法であった。見るといふ行為は目を中心とするものですから、目を出します。

しかしこの目は、単に見えるものを見るといふような目ではなく、じつと何かを見据えているような見方ですね。つまり単に感覚器官において眼に映るものを見るというのとは、見るといふ行為ではない。目を特徴的に上に出すことによつて、相手を凝視する。相手をじつと見入るといふことは、目を通じて相手との内的交渉の関係に入るといふことですね。全く感覚的なものとはちがって、古人の「みる」というのは、相手の心の中に入ってゆくという見方です。国語の「みる」といふ語は、もとは「回_みる」、「廻_みる」といふ語と同じです。見回_{めく}らす、隅々まで見て、見通したぞという見方をする。それが国語における「みる」なのです。そのような「みる」といふ動作を、この文字は形の上にあらわしているというわけですね。